

喜多市立

松山小学校 六年

川口 楓太

二十世紀を生きる君たちへ

ほくは、「二十一世紀を生きる君たちへ」

を読みました。

主人公の「私」は歴史が好きで、歴史小説

を書いています。歴史の中には、この世で

は求めがたいほどにすばらしい人たちがいて

「私」の日常をはげましたり、なぐさめたり

してくれているのです。だから、「私」は少

なくとも二千年以上の時間の中を生きている

ものだと思っています。ですが、「私」には

さびしく思うところもあります。それは、ぼ

くたち子供が持っている「私」には少ないも

の。未来です。「私」は、ほくたちより人生

の持ち時間が少ないのです。もっとも「私」

は未来のことなんか、予測できません。ただ、

「私」は、歴史から学んだ人間の生き方の基

本的なこともでもあるといます。それは、

昔も今も、また、未来においても変わらな

くことがあります。それは、自然があつて、人

間や他の動物、生物までいたるまでに依

存しつつ、生きていくという事です。

人間こそいちばんえらい存在だ。という  
 思いあがった考えが、頭をもたげました。二  
 十一世紀とは、あるいみ、自然へのおそれが  
 うすくなった時代と言えます。自然に対し、  
 いばりかえっていた時代は、二十一世紀に近  
 づくにつれて終わっていくにちがいない。こ  
 私には、そう考えました。人間は自分で生  
 きているのではなく、大きな存在に生かされ  
 ている。と中世の人々は、そのようにへりく  
 だって考えていました。この自然へのすなお  
 な態度こそ、二十一世紀への希望であり、ぼ  
 くらたちの期待でもあります。ぼくらたちは、い  
 つの時代でも、自己を確立しなければなりま  
 せん。自分自身にきびしく人にやさしくとい  
 う自己を。そしてすなおでかしこい自己を大  
 切にして生きるべきだと。二十一世紀にあつ  
 ては、科学と技術がもつと発達するでしょう。  
 科学・技術をぼくらたちのしっかりした自己  
 で支配し、良い方向に持っていき、ほしいの  
 です。人間は、支え合うしくみという社会を

つくり、助け合って生きています。自然物と  
 しての、人間は決って、孤立して生きられ  
 るようにはつくられていません。だから、助  
 け合うことが、人間にとって強く意識しない  
 といけないことなのです。それらを訓練する  
 ことで、自己が確立されていくのです。そし  
 て、たのもししい人間になっ、てほしいと、私  
 は、考えています。  
 この本は、二十一世紀のことをこんなにも  
 よく考え、ぼくたちにとって欠かせないこと  
 を、たくさん教えてくれました。そんな「私」  
 を、ぼくはすごいなと思いました。心に残っ  
 たことは、「自分にきびしく、人にやさしく。  
 değildir。これは、人々が助け合う上で、とても  
 大切なことなので、心に残りました。ぼくも、  
 似たような経験があります。幼い頃に、幼稚  
 園でよくけんかをしていました。人にいやな  
 ことをしてしまっ、ていました。なので先生に、  
 「人にやさしく、自分に甘やかさない」とい  
 われました。ふり返ると、確かに今も自分に

甘いあまなと思おもいます。人ひとにやさしくは、できる  
ようになっなたので、自分じぶんにきびしくできるよ  
うにしたいです。  
主人しゅじん公こうの、「私わたし」は、未来みらいのあるほくたち  
に、二十一にじゅういち世紀せいに必要なひつやうこともたたくさん教あしえ  
てくれまました。この本ほんを讀よんで、二十一にじゅういち世紀せい  
を生きいていく中なかで、うままくいかないことがあ  
った時ときは、「私わたし」が言いったことを思おもい出だして  
楽たのしく過すごしていきいきたいです。

二十世紀に生きる者たちを讀んで。  
松山山学校  
六年 田中あかり

私は、司馬遼太郎さんの二世紀に生きる者たちを讀みました。学校の先生からこの本について感想文を書くように言われ、たんなることか書かれてい子のの知りたくな。たんならでよ。題名にあり「二世紀」という言葉は、今まさに私たちが生きている時代のことです。自分に白けて語りかけこころよくな言いかして、讀むのが楽しみになりました。

この本の中で、司馬さんは日本は資源のない国だから資源を採らなければならぬ。他人を思いやる気もちか大切だ。ということを感じました。伝えたいです。特に心に残ったのは、人を喜ばせることか、自分のしあわせにつなげる。といふ言葉でした。自分がまろこんでもらうことを考えたことはあまりなかつたので、とても印象に残りました。

この言葉を讀んで、私は家の手伝いをしたときのことを思い出しました。私は夏休みのために愛犬の散歩を行ったり、夕飯のたみにおもを研いだりしました。手伝いをすると家から



した。でも、大人にな。たとくに自分のせい  
 で地球が悪くな。たと思いたくありません。  
 だから小さいことでも、自分にできることを  
 していきたいです。たとえばごみを分別する。  
 エコバッグを使う、家族を手伝うなどでできる  
 ことはたくさんあると気がきました。

この本を読んで、二十世紀に生きる私たろ  
 は、ただ今を金銭子ののではなくて、心う未来  
 とよくするのいを考えながら生きることも大  
 切だと感じました。そして人を思いやる気持

ちを忘れずに、自分のまわりの人を喜ばせら  
 れるような人になりたいと思いました。司馬  
 さんの言葉をこれから心にとめて、二十世  
 紀をし。かり生きたいです。

二十一世紀に生きる君たちへ

喜多方市立松山小学校

六年

佐藤

遙音

ぼくは二十一世紀に生きる君たちへを讀

んで思ふたことは

私が持つていなくとも君たちが持つてい

る大きなものがある。

と言う文章です。

ぼくは、今年にひいおばあち<sup>ち</sup>人とおあか

ををしこひいおはあち<sup>ち</sup>人はてんごくへ

と行、こしまいました。だからこの文章を讀

んだときにはどこもなとくしました。

くも~~あ~~なうとくまた場面があります。そ

木は

人間は一人で生きているのではなし。

と言う文章です

ぼくはこう思いました。人間は百パーセン

ト一人では生きていけないと思ひます。なぜ

なら、まずこの二十一世紀に生まれこきたの

も母親か生人ごく木だから今生きてこれるの

です。一人で生ユるのは絶対に生きますことは

できませんたか。みんな取けな。おどおど  
 打ちな。生用。出けな。思お。思お。まず。ぼ。ふ。も。最  
 近。心。い。い。体。験。を。く。た。お。話。し。な。す。そ。九。は。七。月  
 三十一日。津。な。み。警。報。が。着。巻。木。出。た。と。き。ほ  
 ろ。ば。な。と。石。巻。に。サ。カ。カ。の。全。国。大。会。の。一。日  
 目。で。し。た。そ。の。と。き。に。サ。イ。ト。ン。が。所。ち。じ。や  
 う。た。ひ。び。き。わ。た。り。ま。し。た。ほ。く。は。こ。い。し。よ。は  
 ち。う。い。ほ。う。で。ひ。な。ん。を。し。な。く。て。も。た。い。じ。や  
 が。た。た。の。さ。う。か。い。き。な。り。ま。た。サ。イ。ト。ン。か。た  
 り。す。ぐ。に。け。こ。く。た。ま。い。と。ほ。う。さ。う。な。い。と。い  
 ました。そして。た。さ。け。い。さ。つ。の。か。た。か。い。え。い。で  
 走。り。ま。し。た。  
 野。球。場。に。ひ。な。ん。し。こ。く。た。ま。い。  
 と。言。お。な。ま。し。た。ほ。く。は。あ。や。か。い。な。か。た。の  
 ぶ。こ。一。手。の。車。に。の。り。ま。し。た。そ。の。か。た。か。い。え。い。  
 こ。こ。に。ひ。な。ん。を。は。い。い。か。み。な。な。と。話。し。合。い  
 ました。津。な。み。は。ま。ま。せ。ん。で。し。た。か。み。な。な。と  
 協力。す。る。こ。と。か。大。切。だ。と。す。ご。く。わ。か。り。ま。し。た。  
 その。あ。と。東。日。本。大。し。ん。さ。い。の。か。た。り。下。が  
 あり。ま。し。た。そ。の。と。き。に。と。こ。も。話。が。理。解。で。き。ま



「二十一世紀に生きる君たち」を讀ん

で 松山小枝 六年 穴澤 香伶

わたしは 司馬遼太郎さんの「二十一世紀

に生きる君たち」という本を選びました。

なぜこの本を「選んだのか」というと、「自分

には「きびしく「相手には「やさしく」とい

う文章が「心にひびいたからです。」

主人公の司馬遼太郎さんは「面親を愛する

ように「歴史が「好きなんです。司馬遼太郎

さんは「「未来」という町角で「君たちを呼

とめることかできたから」と言う理由で「君た

ちに「「あなたか「今歩いてる二十一世紀と

は「どんな「世の中で「しよ「う」と質問します

だけ「心「その「未来」と言う町角には「司馬

遼太郎さんは「いない。

わたし「が「一番好きだ。たのは「いろいろ

な「時代で「考えか「ち「か「りの「で「おも「し「ろ

いな「と思「いました。「なぜ「なら「中「世「の人「た

ちは「ヨ「ロ「ッ「パ「に「お「い「て「も「東「洋「に「お「い「て

も「そ「の「よ「う「に「ア「リ「ク「だ「う「て「考「え「て「い「た「り「

二十世紀末の人間たちは、このことを、知ることによ。て、古代や中世に、神をおそれたり、そのなれば、二十一世紀の人間は、よりいっその、自然を、そんな敬することになる。そして、自然の、一部である人間どうしに、ついても、前世紀にしても、まして、そんな敬し合うように、なるのにちがいない。そのように、なることが、君たちへの、私の期待でもある。そのように、時代によ。て、考えか

ちがうので、おもしろい。と思ひました。

私も、時代によ。て、考えや、食や物も、服も、いろいろちがうな。と思ひました。

なぜなら、いろいろな、時代で、考えか一緒だ。たり、国や県、町や市が、は、てんしな

いと思ひます。は、てんしなか、たら、人口か、減。たり、したたら、高れい者が多くな、

たら、子供か、少なくな。ちがうので、いろいろな、時代で、考えか、ちがうほうか

いいと思ひます。

人間は、助け合おう、ということか、人間に  
 と、こゝ大きな、道徳に、な、ている。とい  
 うところか、心に、残りました。なせなら、  
 人間は、助け合わないと、生きていけないと  
 思うからです。助け合いながら、生きていく  
 と、分らないところか、分るようになったり  
 できなかつたところか、できるようになったり  
 するからです。

この、二十世紀に生きる君たちへの  
 本を、読んで、学んだことは、二つあります

一つ目は、人間は、社会をつく、て、生き  
 ている。社会とは、支え合の付組にな。てい  
 る。という、文章が、学びました。

二つ目は、かまくら時代の武士たちは、  
 ったのもしさ、ということを、たいせうにじ  
 こきた。人間は、いつの時代でも、たのもし

い人格を持たねば、なからいという文章は、  
 たのもしさ、は、いつの時代でも、子ともて  
 も、大人びも、ったのもしさ、を持つたねば、な  
 らないという、ことを、この本で、学びまし  
 た。

二十一世紀に生きる君たちへをよんで

高野市立松山小学校 6年 中村紀奈子

(まいめ)

わたくしは、二十一世紀に生きる君たちへ

を讀みました。

この本の主人公は、歴史小説を書いてきた

人です。主人公は、もともと歴史が好きで

両親を愛しているように、歴史を愛している

と、歴史とはな人で、大きな世界です。かつて

在した何億という人生かそこらつめこまれて

いる世界なのです。と、答えていたそうので

す。主人公は、二千年以上の時間の中を生き

て、いるようなものだと、思っています。よう

れをきいて、いろいろうち、自分ち、日、日、

いせつに、しな、い、と、思、い、ま、す。未、来、は

自分たちが、は、み、え、な、い、未、来、と、い、う、町、角

で、私、が、君、た、ち、を、呼、び、と、め、る、こ、と、が、ひ、き、た、ら

ど、ん、な、に、い、い、だ、う、う、に、自、分、も、思、う、こ、と、さ、か

あ、り、ま、す。た、と、え、は、も、し、未、来、に、そ、う、と、ふ、く

ろ、ま、か、た、ら、と、か、を、考、え、て、い、る、と、き、あ、っ

た、り、も、し、明、日、な、く、な、っ、て、い、た、り、と、か、を、考

え、て、し、ま、う、と、き、も、あ、り、ま、す。自、分、が、ち、か、う、世



は、のう。力がないと、家をたてたり、食  
 べ物の道具を作る。ことなどはむりな  
 こととです。二十世紀の人間は、よりい  
 っそう自然を尊敬すると思つて、自然の  
 一部である人間どうしに、ついても、前  
 世紀にもまして尊敬し合うようになら  
 ない。いと書いてあつた。人間が人と人  
 を尊敬して、いらない人間も  
 いる。なにもして、いらない人をさし  
 たり、人間がど人ど人なく  
 が人間をなぐつたりして、人がど人ど  
 人なく、自分を  
 なつて、いるのです。それをもつと、  
 自分を  
 きがしく、相手にやさしく、心を  
 かけて、  
 すごして、いくし、介さないのです。  
 一人一人、  
 一人が、この本をよんで、よりよい世  
 界にして、  
 介なると、世界は、なりました。た  
 だ、た、た、た、た、た、た、た、た、  
 世に、おいて、は、特、に、そ、の、こ、と、が、重、要、で、す。  
 二十世紀にあつては、科学と技術が、も  
 っ、と  
 発達すると思ひます。このように、二  
 十世紀  
 は、一人一人の心、かけ、か、大、切、で、す。  
 一、そ、し、て、よ、り  
 より、二十世紀をつくらう、ない、と、い、け、な、い、の、で、

5  
10  
15  
20

す

〇

1

5

10

15

20



福島県喜多方市立上三宮小学校

五年

菊地

智愛

二十一世紀に生きる君たちへを読んで

この本を読んで難しい言葉があった。それは「いたわり」だ。調べたところ、その意味は「優しく親切にする、温かい気持ちでなくさめる」と書かれていた。なるほどと思った。私の学級は全部で五人である。その中で、なかなか登校できずにいる友達がいる。その子の気持ちはよく分からない。でも登校した時は、その子に寄りそうようにしている。

この間、会津自然の家で宿泊学習があった。活動班は別だった。朝、その子の顔を見た。だけでうれしかった。週に一、二回くらいしか登校しないので係の仕事や役割など知らないはず。だから、優しく役割のやり方やダンスの仕方を教えてあげた。みんなその子に優しくかった。きつと、その子に学校に来てほしい。そして一緒に遊んでほしいと願っている。からだ。悪口を言ったり、いじわるしたりする友達。一人もいない。

この上三宮小のように安心できる場所が、えたらいいなと思う。そうすれば、楽しく遊んだり勉強したりできるにちがいない。それが「いたわり」の心につながるのである。次に心に残った文章に、「自分いきびしく、相手にはやさしく」である。毎日ではなけれど、時々、自分にきびしくない時がある。例えば、児童館でやるはずの宿題をやらず、「まあ、いいや、家でやろう」とさぼって、友達と遊んだことがある。結局、夜おそ

くまでやるはめになった。「やっぱり児童館でやっておけば良かった」と後悔した。これからは、自分にきびしく、相手にはやさしくし、すなおでかしい自己を身につけたい。「いたわり」他人の痛みを感じることに「やさしさ」は、もともと一つの根から出てくるそうだ。ある日、三年生の女の子が転んでしまった。「痛い、痛い」と言っていて泣いていた。その声は、どんどん大

まくなつた。すると、おんなが心配そうに集

「大丈夫」

「ひざ痛いよね」

と、声をかけていた。私も、心配だったの  
たたみの部屋に運んだ。これか、他人の痛み  
を感じることにだと思ふ。「自業自得」やな  
い。「良かったね」と言った人は誰もいない。  
優しい人ばかりで安心した。

二十一世紀は、人類が仲良しでくらせる時  
代になつて、本当に良かった。私たちの未来  
は真夏の太陽のようにかかやいている。

「二十一世紀に生きる君たちへを讀んで」

清水 礼威音

ぼくはこの話の中で、心に残ったところが  
あります。

私の人生は、すでに持ち時間が少ない。

たとえば、二十一世紀というものを見ること  
かてきないにちがいない。

君たちは、ちがう。

二十一世紀をたづねり見ることができれば  
かりか、その輝かしい担い手でもある。もし

「未来」という町角で、私が君たちを呼びと  
めることができたなら、どんなにいいだろう。

「田中君、ちよ、とうかがいますか、あなた

だが今歩いている二十一世紀とは、どんな世  
の中でしょう」

そのように質問して、君たちに教えてもら

いたいのだが、ただ残念にも、その「未来」

という町角には、私はもういない。

この箇所を讀んで、ぼくはハッと思いました。

もしいまこの問いを投げかけられたときに

ぼくたちは自信をもって二十一世紀を生き  
いけることができるのだろうか。

また、たとえば十年後に同じことをきかれ  
たとして、すでに二十一世紀の担い手である  
はずのぼくたちは、堂々とむねを張っていら  
れるのだろうか。

そう思うとしても考えさせられます。  
レガレ、どうすればくたきはよりよい二  
十一世紀を築けるのか。

司馬さんは、IPの時代の世界のとこにあ  
っても変わらないものとして、IPの重要性  
を述べました。

①自然を敬い、自然へのすなおな態度を取り  
戻すこと。

②「自分に厳しく相手にやさしく」という自  
己を確立し、いたわりの気持ちをもって助け  
合うこと。

①について、司馬さんはこう述べています。  
「人間は、自分で生きていけるのではなく、  
大きな存在によって生かされている」

この自然へのすなおな態度こそ、二十一世紀への希望であり、君たちへの期待でもある。そういうすなおさを君たちが持ち、その気分を広めてほしいのである。

そうならば、二十一世紀の人間は、よりいっそう自然を尊敬するようになるだろう。そして、自然の一部である人間とラレについて、も、前世紀にもまして尊敬し合うようになるにちがいない。

たからばくは、人に対して、

「いたわり」

「他人の痛みを感じることに

「やさしさ」

この三つを心に持って、人と接して生きてい。

二十一世紀に生きる君たちが何を讀んで

関柴小学校 6年

菅沼 圭徒

ぼくは、二十世紀に生きる君たちへを讀ん

で、私はとても感動しました。この本は、司

馬遼太郎が未来を想う子供たちに向けて書い

たもので、歴史や人間の生き方についての大

切な教えがたくさに詰まっています。彼の言

葉は、私たちがこのように未来を考え、どの

ように生きるべきかを考えさせてくれました。

また、司馬遼太郎が言う歴史の大切さについ

て考えました。彼は、過去の出来事や人々の

選んが今にどのような影響を与えているのか

を教えてくださいます。

歴史を知ることによって、私たちは過去の失敗から

学ぶ、同じ間違いをくり返さないようにする

ことができそうです。

また、歴史を通じて人間の強さや弱さを理解

することができそうです。

このように考える方は、私たちが自分の行動や

選んに責任を持つことの大切さを教えてください

ます。次に、彼の言葉には希望があらわされています。二十一世紀を生きる私たちには、環境問題や社会の不平等、テクノロジーの進化など、たくさんの課題があります。しかし、同時に新しい可能性も広がっています。

司馬は、未来を恐れずに挑戦し続けることの大切さを伝えており、その姿勢は私に勇気を与えてくれました。

彼の言葉を聞いて、「私は自分の限界を越え、未知の世界に飛び込む勇氣を持つことができると感じました。」

また、彼が描く人間の強さや優しさについても心を打たれました。

困難な状況に直面したとき、私たちがどのような立ち向かうかが、真の人間性を試されるきっかけです。

司馬は、歴史の中で多くの人が苦しみながら、希望を持ち続け、助け合いながら生きてきたことを示しています。

このように人間の本質を理解することで、私

は自分自身の成長や他の人との関係を大切に  
することの重要性を再認識しました。  
さらに、彼のメッセージは、私たちが未来を  
創る力を持つていえることを教えてくれます。  
私たちが一人ひとりが小さな行動を積み重ねる  
ことで、大きな変化を生み出すことができ  
るのです。たとえば、環境問題に対して意識を  
持ち、日常生活の中でできることから始める  
ことが、未来の地球を守る一歩となります。  
司馬の言葉をとおに、私は自分の行動が未来  
にどのような影響を与えるのかを考えるよう  
になりました。

総じて、二十一世紀に生きる君たちへは、未  
来を見据えた希望に満ちたメッセージが結ま  
れた作品です。私たちが歴史を学び、挑戦し続  
けることで、より良い未来を築いていけるよ  
う信念を持ち続けたいと思います。この本  
を通じて、私は自分の生き方を見つめ直し、  
未来に向けて前向きな姿勢を持つことができ  
ました。司馬遼太郎の言葉は、私たちがど  
のよう<sup>に</sup>に生きるべきかを考え直すための指針と  
なり、<sup>心</sup>と心に響いてきます。

明るい社会のつくり方

鈴木

心美

「二十一世紀に生きる若たちへ」という文章

を読みました。最初に題名を見たとき、少し

おずかしそうだと思いましたが、読み進める

うちに、今の私たちにと、大切なことかた

くさん書かれていますと気づきました。

作者は歴史小説を書いている人で、歴史をも

とても大切にしているそうです。そして、歴史

の中にはたかくこの人の友人がいると語りま

した。その言葉を聞いたとき、私は「友人

と、いう表現かともすてきたな」と思いました。

過去の人々の生き方を学ぶことは、ただの勉

強ではなく、その人たちと心を通わせるよう

なことのなのだと感じました。

文章の中びか未来を予測することばかり

しいけいど、変わらなないこともあると書かれ

ていました。それは、空気や水、土や植物と

い、た自然です。人間は七んばに科学が進ん

でも、空気を吸わなければ生きられないし、

水が付けられれば死んでしまふ。あたりまえのこと  
 とだけけれど、普段の生活では忘れかけたかちな  
 だと思ひました。私には一人、学校の帰りには  
 川の横を歩きます。水がにこ。てたり、ゴ  
 川の流れがいていたりするのを見て、ああ、自然  
 ももろと大切にしなければいけないと思ふ  
 のです。が、実際にはあまり行動でこいてませ  
 ん。この文章を読んで、もろと自然を守ること  
 とに意識を向けたらと思ひました。  
 また、作者は、人間は即け合、て生きざる存  
 在だ、と言つていました。昔の人たちも家族  
 や仲間と支え合ひながら生きてきたからこそ  
 社会を作れたのだと書かれています。そのこと  
 に私はハッとしてました。自分一人では生き  
 らない。だから、今からこの関わりを大事に  
 して、思いやりや心の豊かさを大事にしたい  
 感じました。  
 心に残り、たのしみ、いたわり、他人の痛み  
 を感じること、これこそ、これこそ、  
 水がら、は、本、能、た、は、な、く、訓、練、し、て、身、に、こ、ら、



二十一世紀に生きる君たちを

慶徳小学校 六年 猪俣 夕実果

「日本はとても美しい国です。その景色も美しいですが、何よりどの観光地へ行っても街にはゴミひとつ落ちていません。日本人の美化意識は大変素晴らしいと感じました。日本に来た外国人の方がテレビ番組で話していた言葉です。

自然は美しく、人々のバをいやし、全ての命を育んでくれます。司馬遼太郎さんの言葉の中にも、「自然は普遍の価値」と書かれています。自然を大切にしたい、仲良く共存して

いくことが未来を生き延びるために必要である。とも書いてありました。

しかし、外国人の方のこの言葉は、日本人全体の表現として正しいものなのでしょう。か。

私たちの学校では、七年前からSDGの活動を行っています。通学路クリーン作戦や、地域のゴミ拾いはその活動の一部です。実際の活動では、道路脇の側溝に空き缶やゴミが落ちています。また、たばこの吸い殻が

も歩道のすみに何本も見られます。こんな姿  
で、本当に日本人はそんなに美化意識が高い  
のでしょーうか。私は、疑問を持ってしまいま  
す。

また、日本人は、ゴミのない美しい国を作  
らうとゴミを減らし、ポイ捨てなどはせず、  
美しい自然と共存していきたいと思っています。  
しよーうか。

私は日本が出してゐるゴミの量について調  
べてみました。すると年間に出すゴミ全体の

量は世界で二番目に多く、一人当たり八百ガ  
ラムほどのゴミを毎日出し続けてゐることを  
知り、とてもショックでした。日本人のゴミ  
に対する理解と行動は、まだまだ低いのだと  
感じました。外国人の方の持った、美化意識  
の高い印象は、これが日本人の目指す目標  
だと思ひます。

ゴミを減らす工夫について考えると、リユ  
ース、リサイクル、リデュースの3R活動な  
どが、現在日本の中核がつつつあります。

具体的には、燃えるゴミ、燃えないゴミ、ペットボトル、プラスチック、アルミ缶などを分別して決められた場所に出す行動は、素晴らしいことだと思うし、着れなくばった服、くっ下、ズボンなどの衣類をリサイクルショップに持って行くこともいい方法です。しかし、国民全体の美化意識を高める方法とは何かを真剣に考えることが大切だと思います。

そこで、地球温暖化と結び付けることでした。ピールすることの最善の方法だと考えました。今年にあって、世界各地で地震や山火事、そして大規模な異常気象が起こっています。

先日起こった台湾やイタリヤでの大洪水、山火事、竹千ヤツ竹半島での地震、これらの現象を取り上げて、SDGs 新聞で家庭や地域に広めていくこと、これが私たちの

日本人の美化意識を高めよう。

二十一世紀に生きる君たちへを、読んで

# 慶徳小学校六年坂内 陽風

「自然こそ、気候変化の価値なのである。不変のものも基準に置いて、人間のことを考えてみたい。」  
この言葉を聞いて、私はドキッと思いました。そして、今地球上の全ての人たちに、この言葉をおしよせたい気持ちになりました。地球温暖化が原因で起きた頻発する異常気象の数々、私たちは、自然のものをこいかに恐怖を感じています。それなのに、人間は、どうでしょう。国と国との衝突や戦争で、自然を痛めつけ、おまけにアメリカでは、二酸化炭素を大量に出す鉄鋼業の復活、ヨーロッパに頼る車の生産増加など、地球温暖化を食い止めるどころか、加速させる政策を行っています。私の住む地域でも、山を切り開いて、スキーリゾートやホテルの設置など、私も疑問に思う事業が進んでいます。今年夏休みも毎日三寸度を超える日が続き、必要のない外出は避けてください。

うアサウンスが何度流れたことかわかりませ  
ん。私自身もこの暑さをおかしいと感じまし  
た。  
私たちが人間は、不変の価値を壊してしまっ  
たのではありませんか。もう不変の価値を取り戻す  
ことはできませんかのうか。  
慶徳小学校では、SDGsの活動に取り組  
んでいます。十七項目の達成可能目標に向い  
て、私たちが自身か話し合いで活動を決定し行  
なっています。地域のクリーン作戦やエコキ  
ヤツプの回収活動、そして地域を巻き込ん  
だリサイクル、リソース、リデュースの3R運  
動など、私たちも頑張っているつもりです。  
しかし、SDGsの十三項目目、季節変動  
に具体的な対策を。では、地球上の国々が協  
力し合うことかできなければ、季節の変動は  
止めることかできないと思います。  
民主主義、社会主義、共産主義など、様々  
な国の形を超えて話し合いの場を持ち、この  
問題に取り組んで行くべきではないかと  
思っています。

全世界の人々の命がかかっているのです。  
「いたわりし」「他人の痛みを感じることし」「  
やさしさし」「たのもしさし」「自分に厳しく、  
他人にやさしくし」など司馬さんの教えを私た  
ちから家族へ、家族から地域へ、地域から国  
全体へ、国全体から世界へと広げて行くとき  
だと思えます。

地球上に生まる一つの命に大人も子どもも  
関係ありません。子どもは勇気を培って

、自分達の考えを世の中に発信していきまし

よう。そして二十一世紀の地球を守っていき

ましよう。

二十世紀に生きる

君たちへ」を讀んで

新編加納小

六年 荒川 怜音

ぼくは、司馬遼太郎さんの「二十世紀に

生きる君たちへ」を讀んで、今ぼく達が生きて

るこの二十一世紀で、人間が大切にしなければ

ならないことを改めて考えさせられました。

この本は、司馬さんが未来を生きる現代の子

どもたちに向けて書いたものです。特にぼく

は、昔も今も自然は不変の価値であり、また

この「不変のもの」を基準にして、人間は、

成り立っているということが印象に残りました。

た。

司馬さんは、人間は「考えることが出来る

動物」だと言っています。動物たちは今後の

ことを考えて行動したり、他人の気持ち考

えながら行動したりすることはできません。

けれども、人間は動物とはちがいをそれをする

ことが出来ます。だからこそ、人間は他人の

気持ちになつて行動したり出来るように生き

るべきなのだと思いました。

ぼくは今、学校の農業科で米づくりに取り組んでいます。苗を植えたり、草取りをしたりして、きちょうな体験をさせてもらって農業科の大変さを実感しています。その作業を農家の方々は自分以外の様々な人たちのためにしている。司馬さんが言うように、「他の人のことを思って行動すること」は、人間しかできない大切なことであり、他の人のために米づくりなどをする農家の方々がとてもす

ごいなと改めて感じました。

また、この本の後半部分には「洪庵のたいまつ」という題材で緒方洪庵さんが紹介されていきます。緒方さんは、医者として実力があリながらも名や利は求めず、他人のため生き続けました。身分差割の社会だった時代で、適塾という学校を開き、どんな身分の子に対しても平等に接し続けたのです。緒方さんは、弟子一人ひとり、「人間らしさ」を大切にしていたのだと思います。弟子たちはたいまつ

の火のように世界中に活やくを広めていきま  
した。緒方さんのだれひとりも見捨てない教  
育が未来を明るくしたのです。

この「二十一世紀を生きる君たちへ」を讀  
んで、これからの時代を生きていくために大  
きなことは何なのかを改めて考えさせられま  
した。自然があるからぼくたちは生きていく  
ことができるということはだれもがむねに刻  
んでいくべきだと思えます。ぼくは、相手の  
ことを思いやりやさしく接することのできる

人間になりたいです。当たり前なことだと思  
いがちですが、人は無意識に自分勝手に動い  
てしまうことが多くあります。そんな時にこ  
の本で教えてくれたことを思い出し、相手は  
どう思うのかをしっかり考えて、発言したり  
行動したりしたいです。そして、周りのこと  
をよく見て気づかい、感謝されるような大人  
になりたいです。

二十一世紀に生きる君たちへを読んで

喜多市立執塩加納小学校

鈴木聡太郎

「聡太郎、今年の読書感想文の本、読んだの？」。

「うん。司馬遼太郎さんの本、読んだよ」。

「えーあの歴史小説家の？そんな難しい本で書けるの？」。

夏休みの初め頃、ぼくは周りの大人の人に司馬遼太郎さんについて聞いてみた。とても有名で立派な歴史小説家らしく、ぼくも知っている坂本龍馬や新撰組の小説も書いているそうだった。

そんな立派な歴史小説家が二十一世紀を生きるぼくたちへメッセージを残してくれたのがこの本だ。

二十一世紀とはどんな世の中なのだろう。日本は豊かで平和だけど、世界では戦争をしている国もある。デジタル化が進み、便利な反面、ぼくもスマートフォンやゲームの使い方にも悩まされている。

この本では、大きく二つのメッセージが書かれている。一つは、自然こそ不変の価値で

あるということだ。昔の人は、自然をおそれ  
その力をあがめ、自分たちの上にあるものと  
して身をつつしんできた。しかし現代に入っ  
て自然へのおそれがかうすくになり、人間は自分  
で生きているようなかんちがいをしていようよ  
うだ。今年の夏も過去最高気温を更新したそ  
うだ。局地的な大雨で大きな被害も出ている。  
ぼくの住んでいる地区では熊の出没が多発し  
ているという防災無線が鳴り響いている。今  
こそ、人間は、自然という大きな存在によっ

て生かされているということを感じ  
なければならぬのだと思う。

もう一つは、自己を確立することの大切さ  
だ。自分にきびしく、相手に優しく、素直で  
かしこい自己を育てることだ。ぼくは高学年  
になって、休みの日に出かけるよりも家でゲ  
ームをしていた方が楽しいと思うことがあっ  
た。ゲームの中に行るとつい時間を忘れてし  
まう。でも、それではいけないと思った。ぼ  
くは学校や地域の人たちと深く関わることで

社会の仕組みを勉強して、みんなと支え合っ  
て生きていかなければならないのだ。

この本を読んで、「他人の痛みを感じるこ  
とは本能ではない。だから訓練をして身につ  
けなければならぬのだ」といふところが印象  
に残った。人の痛みを感じることは難しいの  
だなと思った。司馬遼太郎さんは会津の殿様  
の本も書いていて、戊辰戦争後の会津を心配  
していたとお母さんから聞いた。友だちや家  
族と関わっていたありの気持ち学ぶことも

大切だが、歴史を勉強して当時の人の思いを  
想像することも、ぼくにはできない。「訓練」なの  
かもしれないと思った。ぼくはたれからたく  
さんの人と関わって、たくさん勉強して、三  
十一世紀をたのしく生きたいと思う。

△二十一世紀に生きる君たちへ▽を読んで

塩川小

六年

斎藤優菜

二十一世紀に生きる君たちへを読んで私は  
あなたに<sup>実際に</sup>二十一世紀のすばらしさを感じてい  
ただきたいと思いました。残念ながら私かど  
れだけそれを願おうとかなうとはないです  
が、あなたに少しでも二十一世紀はすばらし  
いと思っっている私の思いが伝わるようにそ  
のすばらしさをととに書き残したいと思いま  
す。

二十一世紀は二十世紀より、技術やいろい  
ろな物が飛んでんしてきます。もしかしたら、  
ロボットと人がまじうぞんする時代もそうと  
おくはないのかもしれません、もちろん絶対  
的にそうなるとはかぎりませんが、今の私に  
は未来のことなど、とうてい分かりません。  
けれど、それはかとも同じです。私には二十  
世紀がどのようなものだ、たの分かりませ  
ん、二十世紀とはどのようなものだ、たの  
しゅうか、とても気になります。とさろで、  
私はあなたから見た歴史とはどのようなもの  
なのか表し方がとてもすばらしいと思いまし

ました。「かつて存在した何億という人生が  
そこにつめこまれていく世界なのです」とい  
う表し方がとても分かりやすいと思いました。  
今、私は六年生で歴史のことをたくさん学ん  
でいます。歴史の教科書には、かつておこっ  
た戦い、出来事、時代のことなどがたくさん  
のびていました。私は正直にいうと歴史が好  
きな方ではありませんでした。最初のときは  
テストのためだと思います。必死に授きま  
うという  
け、歴史を学んでいました。そうしてゐる

うちに歴史に興味がわいてきました。席がえ  
りたびに出来る歴史のかるたも今では、楽  
しみな時間になっていきます。そんな私の大好  
きな歴史をこのようにすばらしいひまうげん  
のしかたをしてくれる方がいてとてもかんと  
うりました。ありがとうございます。

あなたのもうなすばらしい意見をもつよう  
な人がいう「たのしい君たち」の一人に私  
もなれるようにがんばります。私も日々自分  
にきびしく、相手にはやさしくという言葉を

脳にきざんでそれを行動にうつすことが下  
るようにがんばっています。いづかの行動  
の成果、やってきてよかったと思えるよう  
な気持ち、出来事がおこるようになってし  
かり続けようと思えます。私はあなたか  
有名な歴史小説料とおさきしました。この  
二十世紀に生きる君たちへ読んでぜひ、他  
の作品も読んでほしいと思います。あなた  
の作品があつたら読んでほしいと思います。

この作品を讀んだ身として、あなたにふん  
もこの残りの人生をつかいて、二十世紀の  
すけらしさをくれまでも、くれからも、し  
かり実感していただきたいと思えます。

塩川小学校 6年

自己の大切さ

古川 芽樹

私は本書に書かれているように自己を確立せねばならないと考える。

なぜなら社会は相手のことを気づかう優しさで回っているからだ。ぼくは最近そのことを自格させられた。

ぼくにはいとこがいる。なんとそのいとこの姉が近ごろ赤ちゃんを生んだのだ。その姉はそのころ保育士の仕事を始めた。たしかし弟ちびんが生まれてしまったので保育園側はなんと十年仕事を始めるのをえんきし

てくれたのだ。それだけで優しさといえるのかとぼくは思った。しかし母の考えを聞いて意見が変わった。母の話によるともともと入る予定だった人が入れなくなったら予定がくる。て調せいするのに時間がかかるとしてしまう。さらに保育士が一人でもいなくなってしまうとまた新しい保育士をやとわないと大変なんだ。そった。それが分かっていて一年間もえんきさせてくれたのだからすごい優しいなと母は思った。ぼくもこの考えを聞いて優



を確立していかない人間。このままであらうたら  
いくな。てしまいうるか。ほくはこう考え  
た。人というのはまず学ぶ生き物だ。しかし  
悪い自己をもっている人が自分といっしょに  
ささえあっているんだ。たらどうなるだろう  
か。自分も悪い自己を持ってしまっだろう。  
そのようなことにな。てしま。たら遠太郎さ  
んが望む二十一世紀ではなく。てしまっか  
もしれない。なので私は正しい自己を確立せ  
ねばならないと考える。

二十一世紀に生きる君たちへをよんで

塩川小学校 6年 小澤 利乃

私は、二十一世紀に生きる君たちへを語る  
で一人間は助け合って生きていくので、相手  
をいたわったり他人の痛みを感じたり、やさ  
しく接することか大切だと思いました。

でも実際は、頭ではわかっていても行動で  
表すのは難しいと思います。私は、習い事な  
ど初めて会った人にはきんちようして、自分  
から話すことかあまりできませんでした。し  
かし、お友達の方から話しかけてもらってき  
んちようかほぐれました。その時、言葉にし

て表すことは大事だと思いました。

他にも、算数の授業で先生に指名されて答  
えられなかったとき、近くの席のお友達かこ  
まっていた私に気づいて、  
「ここは、こうゆうふに  
なるんだよ」  
と、やさしく声をかけて教えてくれました。

私は、助かったと思います、お友達にありがと  
うと伝えました。今度は、同じようにこま  
ているお友達かいたら、自分からゆうきを出

して声をかけてあげようと思いました。

私は、あまり自分からすすんで話しかけたりすることか苦手です。か、六年生になって頑張っていることかあります。それは、いろいろなる場面でも下級生をまとめることか多いのでわかりやすくやさしく声をかけてあげるということかです。特に一年生は初めてのことかたくさんあって不安や心配な気持ちになったりと思ふので、私のほうから声をかけてあげようにか人ばりました。

また、入学したばかりの登校班では、お母さんととはなれて泣いている子かいたり、歩まなれていない通学路で転んで泣いている一年生かいたりして、大変なことかたくさんあります。た。そんなとき私は、にもつをもらってあげたり、何回も後ろを確に人してスピードをあわせてあげたりしながら歩きました。最初のころは、私も学校に着くまへにつかれてしまいい大変だったけど、少しあつまとまってまました。

また、自分から話しかけて仲よくなれたお  
かたで、学校がおわつてから遊人だりする機  
会が増えました。

「なわとびの二重とびと、あやとびができな  
いから、どうやうたらうまくとべるか教えて  
ください」

と、言われて教えてあげたこともありました  
。言葉だけでは伝わりにくいので、私が実際  
に二重とびと、あやとびをと人でみせたり、  
リズムを教えてあげました。何日かあとに、

お友達のお母さんに  
「教えてくれてありがとう」  
と言われて、とてもうれしい気持ちになりま  
した。お母さんにもほめられて自信がくま  
ました。

このような出来事をおして筆者が言っ  
いたように協力する事は大切だと思いました  
また、自分の行動がだれかにえいきょうを与  
えているかもしれないと考えると自分の言葉  
やたいごに責任をもとうと思いました。

ほくは「司島遼太郎」さんの「二十一世紀に生る君たちへ」を讀んで、AIなどとは何に関わっていていけばいいのかなと思った。二十一世紀はなり、AIなどが発達した。人々はAIなどに任せるまゝになり、色々なことを早くすすめるようになる。AIなどを扱うことになった。たかすべてをAIなどに任せてしまふと、やがて人間までも支配されてしまふかもしれない。人間のもて、いる「自己」をうまく使うことによつて、AIなどをいい方向に向かせられるのではないか、と思った。でも、「自己中心」になつてはならないと思う。人間はいつでも助けあつて生きているのだから。人間は社会でも、科学や技術を使うことができると思ふ。社会とは、支え合つていう仕組みと存している。社会には、仕事がある。そこで、飲食店などで配達ロボットを見たことがあるだろうか。配達ロボットは、いそがしくてテーブルに運

べないときに運んでくれる、おたすけロボットだ。人間は技術をうまくつかうことによつてこのような活やくできるロボットにできる。だが、AIなどを使つたことによる犯罪が増えている。例えば、人の顔をAIでつくったりしてSNSなどで拡散したりも、人間をたまたたりすることだ。これをやることによつて人が悲しむかもしれない。「テマ」だ。だから、AIなどを使うときはこのようなことをやらないでほしい。

AIをうまくつかえは、いいことにつながらる。スマホなども、人間が作ったハイテクな技術だ。スマホはすごい人間の技術だと思ふ。人間は、AIなどとの関わりを切つてはいけなひと思ふ。だが、昔の人々はAIなどもないから生きてきているのだから、二十一世紀のほくたちも生まれると思ふ。「司島遠太郎」さんは、「二十一世紀にあつては、科学と技術が」と発展するだろう。だが、科学や技術が、こう水のように人間をのみこんで

しま。てはならない。と書いてあるところに  
ほくは、よく共感した。二十一世紀は、か  
なり技術が発展しているが、そればかりにた  
よ、てしま。てはならないと思う。

ほくは、この本を讀んで、共感するところ  
がたく工人あ、た。科学や技術にたよります  
ていると、だめだと思。だから、使。とま  
にはよく考え。つかうことが大切だと思。

私の主張 又

塩川小学校 六年 山田清菜

なせ私たちは争うのたろう。なぜむだに自  
 然をこわすのたろう。私は、司馬遼太郎さん  
 の「二十世紀に生きる君たちへ」という本を讀  
 んで、そんなことが思いうかびました。人と  
 いう字は支え合っている。だからが言いま  
 した。ですが、人は、人同士で戦争をしていま  
 す。確かに、私のような子供には、戦争とい  
 うものは深くは分かりません。もしかしたら  
 戦争をしなればならなかったのかもしれない  
 せんし、私に経験したこともありません。です  
 が、私が思うのは、話し合いをし、かりとす  
 れば、公平になるのではないかと、いうこと  
 です。この本には戦争のない未来を望んでい  
 ることが書かれていきます。ですが、今のじま  
 たいでは、この作者が望んでいる未来とはちが  
 います。戦争というのは始まってしまっ  
 止められませんか。刻を止められる人間はいま  
 せんし、食べ物やポツポツたして、が死をし  
 のげるわけではありません。命は一つだけ  
 ず。そんな大切なものを、人は人同士でこわし

てしまっています。そんなことは、私達のこ  
うな子供でも分かる。おかしい事だと思いま  
す。人はもともと命を大事にするべきです。  
そして私にはもう一つの主張があります。  
それは「自然をむだにこわさないでほしい」とい  
うことです。人は、自然は大事だ、自然を守れ  
と言わうわりに、自然をこわしてしまいます。木は  
必要最低げんで取って、いる「エゴ」に協力してい  
る。そんなことを言う人もいるかもしれせん。  
ですが、自然というのは、木や水、草などだ  
けでなく、動物もふくまれると思います。動  
物は、人が生きるために死んでしまふ動物だ  
ています。今では、絶滅を防ごうという  
活動があります。私からするとプラス  
マイナスで、マイナスの方が大きい気がしま  
す。人間のせいで、絶滅してしまふた生き物  
だっています。日本で代表的なのは、オオカ  
ミです。たしかに、オオカミは、今のクマと  
同じように人をおそいます。ですが、今のク  
マがころされた、と聞くとき、私は、お母さん

や、弟などに、わざわざ殺す必要なく、かく  
りするとかいい、だめなのかな？と言います。  
ですが、弟は理解できる年じゃないし、両親  
は、人をおそろからと、しょうがないとい  
かんじで言ってます。私は、少しだけ、モ  
ヤッとしました。私は共感してもらいたか  
たのが、もしもありません。きっと、オオカミが殺  
されても、同じことになると思います。たし  
かに、おそれた場合、自分を守らなければ  
いけません。ですが、おくびょうなく、まの

場合、出ただけで殺してしまふのはひどいと  
思います。自然は生きています。命もありま  
す。それを人間のか、てにしていいのでしょ  
うか。

私はこの二つのことを主張します。

二十一世紀に生きる君たちへの感想

塩川小学校 六年 田中 歩

ぼくは、二十一世紀に生きる君たちへの初  
めて読みました。その中で、とつても心に残  
った文章は、「人間は、助け合って生きてい  
るのである」と言うところです。人間は、社  
会の中で、お互いに助け合って支え合いなが  
ら生きていくことが分かりました。

この「二十一世紀に生きる君たちへ」は、  
著者の言葉が心に響き、大人も読み返したい、

自然との共存や他者への優しさ、利に偏らない  
生き方への問いかけ、そして子どもたちの未  
来への期待な感じが分かるようにかいていた。  
人間は自分が生きていくのではなく、人  
きな存在によって生かされている。この考  
えは、近代に入って、ゆがいたよすが  
か近ごろ人間たちはこの考えを取りもがしつ  
つあるように思われる。しかかかっているか、  
それは最近、人間がコロナウイルスや様々な  
ウイルスを体験して、自然の強さを味わった

かかかもしたない。自然の強さには、勝つ存  
 りし、逆かうこともできないうてこしを、了  
 口ナを経験して、ぼくは、感じるこしかでき  
 ました。

人間は、助け合って生きている。人間は、社  
 会を作って生きていき、自然物としての人間  
 は、決して、孤立して生き分るようには、  
 作られていない。とかい

とかいてあります。が、学校生活やふかんの  
 生活の中でも助けたり、助けられるりする事  
 があるので、かかかっているこしは、本当にそ  
 のとおりかたな思いました。

もう一つ、この時代でもそういうであつたよ  
 うに、自己を確立せねばならない。自分に厳  
 しく、相手には、優しくかかかっているが、  
 其隙には、自分に甘くなってしまう人が多い  
 のではないのか。他人の気持ちを感  
 取り行動することです。コミュニケーションを上  
 手くすること、人に優しくできると思う。

人間こそ、一番に存在が、と云う思い

あかっ左考んもまぢかゝてゐるとかか木てい  
 るが、そのとかりかゝ思ふ。  
 まぢめ 今まぢかいてきたことば、いつの  
 時代でも人間が生きていく上でかかすことをか  
 べきない、心構えと云うものです。

「二十世紀に生きる君たちへ」は、そま  
 いう莊嚴さを感ぜつつ、書いたのです。つ  
 の鎖へ、ひびりがつへの手紙として。これは  
 かりは時世時節を超越して不変のものかゝ  
 うことを書きました。日本がけでなく、アフ

リカのムラヤ、ニューヨークの街にゐることか  
 もにも通じるか、おそく通じる、と何度も  
 自分に念を押しつつ書きました。この、二十  
 一世紀に生きる君たちへ」を読んで、分か  
 たことを今後にかしていきたいと思いまし  
 た。

二十世紀に生きる者たちへ  
を讀

んで

塩川小学校 六年 小原 唯愛

私はこの本を讀んで心にのこった言葉があり  
ます。それは、人間は自分を生きてい  
るのではなく、大きな存在によつて生かされ  
ている。下す、理由は、自分一人下生きてい  
るの下はない。自分の両親、おじいちゃん、  
おばあちゃん、のまたおじいちゃん、おば  
あちゃんから自分がいる。だから自分

は、たくさんの家族が生きていたからこ  
に、たんだ。という事は、自分は一人下はな  
い。家族がいるんだ。こい、聞かされてい  
ようなきがして心に残りました。私はこの  
本を讀む前、自分は世界に一人しかいない  
と思、ていました。でもこの本を讀んでい  
ると、なぜか自分の場所が見つか、たよう  
な、きかすの下す。最初、一回讀んでみても少  
ししか理解できません。でも二回、三  
回と讀んでいくうちに、遠太郎さんがなぜこの

本をかいたのか、どのよう  
な思ひ下かいたのか、  
か、ったわ、う、きます。

あと私はもう一つ心に  
のこった言葉があ  
ります。それは、くさり  
下す。このくさり

りの意味は、自分は家族  
とくさりのように、つ  
ながれて、いる。自分  
の両親、おじいちゃん、

はあちかん、のまたおじ  
いちゃん、おはあ  
ちかん、か、いる。その  
ように、じんくさり

のようにつな、がる。こ  
う意味。つまり  
私が思、た事は、一人  
じやない。家族が、

こ、いうこと。わたしは、  
さ、さか、いた言葉にも  
う、一つ思、たことがあ  
ります。それは、家族

や自分の、いのち、は、大  
切、という、こと、下す。  
自分、は、一人、下、い、  
き、て、いる、の、は、な、

い、と、自分、も、い、な、い。  
だから、家族、の、命、も、  
家族、が、い、な、

の、命、も、大、切、に、し、て、  
い、わ、れ、て、る、よ、う、に、  
も、思、い、ま、し、た。この  
本、生、子、供、た、け、に、よ、

う、に、思、い、ま、し、ま、す。  
か、も、大、人、に、も、い、  
い、ま、し、て、い、る、よ、う、  
に、も、か、ん、じ、ま、す。あ、  
と、か、い、ま、す。



「二十一世紀に生きる君たちへ」を読んで

塩川小学校 六年 安藤 夢夏

私は、この本を読んで、いろいろなことを  
考えました。でも難しいところもあってよく  
分からないところもありました。だけど、な  
んとなく一人では生きられないんだな  
という感じが心に残りました。たぶんこの本  
の中にも、そういう意味のことが書いてあ  
たと思います。だから、私はそれを自分なり  
に考えてみました。

例えば、ご飯を食べるときもそうです。お  
母さんお父さんが作ってくれるけど、その材  
料だつて、農家の人で作ってるし、スーパ  
ーで売っている人かいるからこそ食べられる  
んです。さらに、例えば、トラックで運んで  
くれる人もいるし、海をこえて外国から来る  
食べ物もあるんです。そう考えると、たつた  
一回のごはんにも、すごくたくさんのか  
があるんだなと思いました。だから、やっぱ  
り一人では生きられないと思いました。

学校のことも同じです。もし先生がいな  
かったら、私は勉強がわからな  
いし、友達がいなかったら、学校は全然楽しくない  
と思います。友達がいるから休み時間に遊べ  
るし、体育でも、一緒に走れるし、発表の  
時も聞いてくれる人がいるからがんばれるの  
です。だから、友達や先生がいることは、す  
ごく大事なんだなと、思いました。

この本を読んで、「ありがとう」をもつと  
言おうと思いました。私はバの中では思  
っているけど、なかなか言ひないとき  
があります。でも、やっぱり言  
ったほうがいいと思います。  
はあかしいけど、言ひないと伝  
わらないから、です。だから、  
これからは少しずつでも声  
に出して言うようにしたいです。  
例えは、給

食のとき、「今日はたきます」「ごち  
そうさま」と言うことだっ  
て、よく考える。「ありがとう  
と、同じなんだな」と思  
いました。

それから地球のことや世界のこ  
とを少し書いてあって、あ  
って、難しかったけど、「私達  
がこれか

ら考えないといけないんだな」と思いました。  
ごみを減らすことが、水をむだにしないこと  
なら私でもできると思いました。私は家でお  
ふろに入るとき、お母さんに「シャワー出し  
っぱなしにしない」と言われまます。そのとき  
は「ちよ」とめんどうだなと思うけど、この本  
を読んで、「やっぱり水を大切にしないとい  
けないんだ」と思いました。小さなことでも  
みんなやれば大きくなると思います。

この本には「大きな世界」「何億という人  
生がつめこまれている」と書いてあって、す  
ごいおもしろいと思いました。世界中の人が生きてき  
たことかっまっているなんて考えたことがな  
かったからです。ニュースを見ると外国で戦  
争をしていたり、地震があったりして大変だ  
と思えます。だからけんかや戦争をしない方  
がいいと感じました。この本を読んで一人  
一人は生きるとは何かとゆうことを心に止め、身  
近な人に感謝を伝え、将来は人の役に立つ仕  
事をしてみたいので、勉強も頑張りたいです。

二十世紀に生きる君たちへを讀んで

塩川小波 梶茂 李萊

私は二十世紀に生きる君へを讀んで最

初の思ふこととは二十世紀を見ることか

できない人達かうけついできた歴史を二十

世紀を見ることかできない人達かうけついで

く未来に歴史をうけついでいくことかでき

る人かかていきたいといふことかすゝ後

君たちと話かできないのは今のうちとい

ふことである。

という文章を讀んで今した心ことをしたほう

かいい、今できないことかあるなりや、たほう

かいいといふことを思ひしらせる文章たなど

思ひました。

私か心に残った文章は

「助け合ひ」といふことか人間にとつて

大きな道徳に在る。

という文章です。心に残った理由は、人々は

助け合ひながら生きていくと、助け合ひとい

う行動がみんなにえいきまうするみんなの大

まな道徳を生うんでいくの下はないのかと思っ  
 たから下す。私もこままている人や、人々の  
 お手本とされるような行動をしていきたいと  
 改めて思いました。

私か、心を動かされた文章は、  
 『書き終わつて、君たちの未来が、真夏の太  
 陽の赤あかいにかかやいていいるように感じた』。

という文章です。心を動かされた理由は、こ  
 の本を書いた作者司馬しほ遼りょう太郎たろうさんは、私達二  
 十一世紀を生きる人々のことをきたいして書

いたんじやないかと思ったから下す。  
 『真夏の赤あかいにかかやいていいるように感じた、  
 という言葉に、司馬遼太郎さんは私達の未来

を考えた時、キラキラしてかかやいて見えた  
 のかなと思っい、少し感動しました。

二十一世紀に生きる君たちへを読んで色々  
 な感情が湧き上がりました。この小説を書い  
 た司馬遼太郎さんは、数々の有名な小説を書

いていて、二十一世紀に生きる君たちへを初  
 めて読みました。感動する文章や、不義思た

なと思つた文章など個性的な文章がたくさん  
ありました。司馬遼太郎さんはすごく個性的  
な方なと思つたりもしました。私が一番心  
に残つた言葉は、  
「すつしりとしたたくましい足とりで、大地  
をふみしめつつ歩かぬはならない。」  
という言葉です。理由は、すつと止まつてい  
るんじやなくて一歩一歩歩き出さないと有も  
始まらないという意味があるんじやないかな  
と思つたからです。

この小説を読んでも前までは本や小説を読む  
のは興味があつたけど、少し興味がわい  
た、本や小説を好きになつたと思ひます。

二十一世紀に生きる君たちへを讀んで

塩川小学校 六年 秋元 博仁

この本は、司馬遼太郎さんが書いた本で、  
司馬遼太郎さんは、歴史が好きで、歴史小説  
を書りてきた。司馬遼太郎さんは、僕たちが  
生きてゐる二十一世紀は、どうなつてゐるの  
かが書りてゐる本です。

僕は、この本を讀んで、二つの大切な言葉  
が出てきてゐるのに気がつきました。その言葉  
は、「自己」という言葉と「人間は、自分で

生きてゐるのではなく、大きな存在によつて  
生がされてゐる」という文章と、「言葉が  
心に残りました。最初は、自己という言葉で  
す。なぜかというところ、この本ではこう書りて  
ゐる。自分にはきびしく、相手にはやさしく。  
この意味は、ぼくは、相手には思ひやりをも  
ち、自分が悪いことでしたら、自分にもその  
分の悪いことが返つてくると思つて生活する。  
二十一世紀では、特にそのことが大切なな  
りてくる。二十一世紀では、科学と技術がもつと

発達するよう願。てりて、司馬遼太郎さん  
は、二十世紀には、より方向に向か、てり  
くのが大切だと思。こりると思。です  
が、自己とり。ても自己中心には、な。こり  
けはならなり。この本には、書いてある。助  
けをいという気持ちや行動のもとは、りたわ  
り感情である。他人の痛みを感じる、やさし  
さ、この二つに置きかえてもよい。りたわ  
りし、「他人の痛みを感じる」とし「やさし  
さし、この三つの言葉は、同じようなもの  
ある。三つの言葉は、一つの根から出てきてい  
ると、この本には書いてある。それど、僕、  
私たちは、訓練をしてその三つの事、身に  
つけることが大切。  
最後に「人間は、自分で生かされてい。の  
どはなく、大きな存在によ。て生かされてい  
る」という文章を讀んで、一つ疑問にな。た  
ことがある。それは、文章の中に出。くる  
大きな存在だ。僕は、その大きな存在は、自  
然、植物だと思。それは、なぜかとい。と、

自然、なくなると、人間は死人でしまう。司馬遼太郎さんが生きていた二十世紀とは、自然にはおそれかうすくなつた。この本は、書いてりる。だから、僕たち、私たちで、二十一世紀ではそんなことにならないうちに、すなおな気持ちを持つ。そうすること、自然にうすく感じていた人も、よりの。そうに自然を尊敬すると思う。僕たち、私たち人間は、自然の一部にすぎなかり。そう思つてくれは、自然だけをなく、他の植物や人物などに思いやりを持つようになる。僕は思ひました。

司馬遼太郎さんは、二十一世紀を生きる僕たちに向か、アドバイスをしてくる。だからこそ、僕たち、私たちは、司馬遼太郎さんの考へた、ともな。こ、全国の人々に、思いやりを持ち、僕たち人間は、自然の力による。生きてりる。この二つの考へを、大人になるまで覚えておしり、また、この本を讀んで司馬遼太郎さんの考へに共感しおほしり。

二十一世紀に生きる私達の使命とは

塩川 六年 佐藤 浩輔

私は二十一世紀に生きる君達へを読んで  
心か動いた。なぜなら、この本は、筆者が私  
達に伝えたい考えや思いなどが正確に書かれ  
ているからだ。そして私は、この本が、今の  
時代に生きる私達へのちうこうなのではな  
いかと思う。例えば、人間は自分で生きて  
いるのではなく、大きな存在によって生かさ  
れている。というところ。大きな存在とは

地球という自然という意味だろう。この文  
を読んだとき私には、とてもその通りだと  
思った。考えてみると、ちかごろ私達は、そ  
の考えを完全にわすれている。人々は、  
自然が持つ力が強すぎて、まねに来る、大災  
害におひえなから生きている。筆者は自然に  
対し「尊敬」という言葉をしるりに使っている。  
さらにここで「自然の一部である人間」と筆者は、  
言っている。この文は、私が思うに筆者が生  
きた時代は、人間こそ、食物や水の頂点に

君臨する人間こそが正しいのだとか、正義だとか言っていた時代だった人だと思ふ。さらば尊厳以外にも筆者が多用して言葉がある。それは「期待」「希望」という言葉だ。これは筆者が使きたいはりかえった時代を二十一世紀にいさる私達に終わらせてほしいかたじけなく、筆者の思いがかかきあてている言葉な人たと思つた。

初めに、私はこの本が「現代に生きる私達へのちがうこくと言つたけれど、もう一つの役割をばたしているといえるだろう。それは子供の私達への道しるべになつてるといふことだ。ちがうこくでもその役割をじゅう分けたしているといえるだろう。そして筆者はこう言っている。自分に厳しく相手には優しく。という自己をという文だ。このことは、一見とても簡単そうに見えるが、実は簡単ではないうむしろ難しいといつてもいいだろう。はいかなる時も自己をたもつてはまけるのは、とても難しいことだし、たまたまを見失うこと

ともあるだろう。それでも前に進んでいかな  
くちがならぬのだ。そして筆者は、こうい  
ている。「科学が技術がこう水のように人間を  
のみこんでしまつてはならぬ。川の水を正  
しく流すように君たちのはつきりした自己が  
科学と技術を支配しよ。い方向に持つてい  
ほしいのである。」と。今は「科学と技術が人間  
のんでしまつていよう。科学と技術が進みすぎ  
て川を流れる水があふれてしまつて各地で戦  
争がおこつてしまつていよう。筆者の思ひは現

代は、かりはを木てしまつた。だが人間は助  
け合つて生きていよう。とい言葉は、この本を  
読んだ人に確実に届いていよう。

このように、筆者の伝えたい思ひは、私達  
に届けることができた。この言葉を筆者に私  
は、伝えたい。そして私達には、この思ひを  
うりついでいくという使命ができた。ハツカ  
人類が思いあからぬように次世代にしつかり  
と伝える必要がある。そうすることか、私達  
にできる筆者への最高のプレゼントだろう。

二十世紀に生きる君たち人を読んで

塩川小学校 六年 大堀 碧羽

私は、二十世紀に生きる君たち人を  
読んで、心を動かされました。なぜなら、言  
葉や文が、どくるところからです。いつも聞か  
ない言葉があります。  
それは、人間は、自分で生きているので  
はなく、大きな存在によって生かされてい  
ます。その言葉は、人間にとりわすれては  
いけない言葉だと思えます。

その理由は、人間は自然によつて生かされ  
ているからです。自然がなければ、水分も取  
れず、呼吸も吸えないので死んでし  
まいます。

私は、ずつと人間の大人たちに支えられて  
いると思つていました。それは事実だけど、  
大人たちも子供たちも、自然に支えられ  
て、いるんだなと、自然への感謝の心が生まれ  
ました。司馬遼太郎さんのおかげだと、私  
は思いました。

司馬りょう太郎さんが、二十世紀とは  
 どんな世の中でしやうと書いていました。  
 今、起きている事を直接伝えたいけれど、  
 できません。なので、書きたいと思います。  
 今、起こっていることは、自然がさゆされ  
 ています。ひどいと思いますか。私は思っ  
 ます。自然は人間たちを支えているのに、思  
 返し返すべきなのに、自然を傷つけていま  
 す。同じ人間がこわしてしているのに止める事は  
 できない。少しくやしければ、自然をこわ  
 して、いる理由は、人間のためでもあるんじや  
 ないかと思えます。人間の家をつくらたり、  
 物をつくらたり、するからだと思えます。そ  
 れは、感謝して、います。みんな救われて、  
 いるからです。これも考え、ると自然が、いるから救  
 われているんだなと思います。  
 この自然へのすなおな態度こそ、二十一  
 世紀への希望であり、君たちへの期待でもあ  
 る。えういいうすなおさを君たちが持ち、その  
 一部分をひるめてほしいのである。えうなれば、

二十世紀の人間は、エリイ、そう自然を尊  
 敬することになるだろう。そして自然の一部  
 である人間どうしについても、前世紀にま  
 して尊敬し合うようになるのにちがいない。  
 そのようになることが、君たちへの私の期待  
 でもある。という文で思った事は、りょう太  
 郎さんの期待に応えなきやなと思ひました。  
 この自然へのすなおな態度こそ、二十一世  
 紀への希望であり、君たちへの期待でもある。  
 すなおに態度にあらわさうと思ひました。

私は、二十世紀に生きる君たちへも  
 読んで、自然に支えられている事も知り、新  
 しい言葉を知り、未来を知りました。  
 りょう太郎さんの期待に答えて、たかたか  
 したバを持ち、新しい事に進みたいと思ひま  
 す。

二十世紀に生きる君たちへを詠んで

塩川小学校 六年 小林 優 咲

私は二十世紀に生きる君たちへを詠んで  
最初あまりよく分かりません。下した。色々  
な言葉が下つてきて分からなかつた。何と詠んで  
いる時にとっても心に残りた言葉がありました。  
それは、人間は自分下生きているので  
はなく、大きな存在によつて生かされて  
いる。という所かとも心に残りました。理由は、  
自分が今生きているのは、親かいるからだし  
自然があるから生きていれる。な。と思つたか  
らです。

私は司馬遼太郎が書いていた自己を確立  
せよ、自分にきびしく、相手にはやさしく、  
いたわり、それらを訓練すること。自己か  
確立させていくのである。それ、たのもし  
い君たちになつていくのである。という所か  
少し疑問に思いました。『たくましく』とい  
う言葉が、具体的にはどういうことなんだろう  
うと思いましたが。でも何回か読んでいくうち

に意味が分かってきたかします。わたしは人間はたれでもその47のことを訓練すればたくましくなれるということがあると思いましたが。たくましくなるためには、自己を確立し、自分にきびしく、相手にやさしく、いたわりを訓練すればたくましくなれるということが分かりました。この47のことをこねから進んで取り組んでたくましくなるようにしたいなと思います。たのもしさとは、人格の開き、く下、いつの時代でも次かせないものということがあります。ました。

つぎに、印象に残った言葉は、「わからないうことか分ける大切さ」という言葉です。わからないうことかあるから、知りたいと努力をしたりして成長などの進歩につながるかと思いましたが。

わたしは、この本を読んでこれからやっといきたこと、毎日、毎日の生活の中、下と環境問題について意識をしたり、ゴミを減らした

たり、リサイクルをしたりしたいなあと思  
ました。自分の頭で考える習慣を身に付けた  
いなと思いましたが。他にも、二十一世紀に生  
きる君たちへを讀んで、学校の中でも、友だち  
存心と身近なもんたに、ついて話し合うこと  
も大切だと思いましたが。そして自分のまぢや  
家へ下りてくることもし、かりしていきたり下す  
た。たとえばゴミは分別したり、電気や水などを  
むたかにかいしないように気をつけるなどの  
小さな行動からしていきたり下す。

わたしは、これからわからないことをその  
ままにしないで、自分で考えたり、調べたり  
聞いたりして、わかろうとする努力をしたい  
です。そして、地球や社会のためにゴミを入  
らしたり、人にやさしくしたりすることを、  
毎日の中で大切にしたいです。二十一  
世紀に生きる君たちへは、わからないと  
思う気持ちも大切にしようというとか、書  
かれていますのかとわたしは、思いました。

はいけい司馬遼太郎様

塩川小学校 六年 藤原 楓良

「二十一世紀に生きる君たちへ」を読んで  
これは未来に生きていくぼく達への手紙だ  
と思いました。だから、二十一世紀に生きる  
ぼくが返事を書きます。

まずは自然にづいてです。自然は人間が生  
きていくために、必ず必要だといふことは変  
わりません。だけど、大きな災害が何回もあ  
って人間は何回もこわい思いをしました。そ

してそのたびに協力して元にもどそうてがん  
ばりました。あなたは二十一世紀で、自然を  
もっと尊敬してほしいと期待していたと思ひ  
ます。だけどぼくは、その期待に応えられて  
いないような気がします。どんどん木を切っ  
たり、山にたくさんソーラーパネルを作っ  
たりして自然をこわしています。そのせいで  
動物の住む場所が減ってしまいました。そし  
て二十世紀の夏は、とっても暑くなりました  
た。三十七度になつたりします。そういうこ

とが原因で、今、毎日のように熊が町に出てきたり、人をおそうニュースがテレビで流れていきます。二十世紀には、熊のえさがたくさんあつたはずだけど、今は人間のせいでえさが無くなつてしまつたんだと思います。人間は自然をもつと大切にしていかなければいけません。ぼく達が大人になるころにはもう少し期待に応えられるようにがんばります。

次に、ぼく達自身についてです。自分に厳しく、相手にはやさしく。ぼくは自分にもやさしく、相手にもやさしくしていきます。お母さんには、もう少し自分に厳しくしたほうがいいかもね。と言われてしまいました。少し当たり前があるので、気を付けてようと思いません。

人間は助け合つて生きていくことは、ぼくも実行できていることがあります。ぼくは一年生のころからサッカーをやっています。サッカーはチームスポーツで、声をかけ合つてパスを出してゴールを目指すので一人では

まません。そして今は、陸士大会のリレーの練習をしています。リレーは四人でバトンを渡すので、みんなで協力して支え合って走ります。

世界中の人が、リレーのバトンパスやサッカーのパスをするみたいに相手を考え支え合っていけば、戦争も無くなっ、平和な世の中になるんじゃないかと思っています。

二十一世紀はまだ戦争をしている国もあるし自然が減っている場所もある、期待して

いる未来にはなっていないかもしれないけど、良くなるように努力している人もたくさんいます。だからあまりがっかりしないでください。

二十一世紀に生きる君たちへを讀んで、今度はぼくが生まれる前の二十世紀がどんなふうだったかを調べてみようと思います。

未来と過去のちがひ

塩川小学校 六年 佐藤 丑衣菜

私は、二十一世記に生きる君たちへ、  
を讀んで未来と過去には似てゐるところと似てゐないところがあること、  
分かりました。植物や動物が、  
いるところは、  
あつた。私は、  
今、植物や動物が、  
いるのは、  
あつた。と思つて、  
います。でも、  
今、植物が、  
なかつた。公園や学校ま  
での道も、  
緑が、  
なくなつて、  
いままゝ、  
見て、  
いた

場所や道が、  
なかつても、  
さびしく見えると思ひま  
す。動物も、  
同じで、  
今、動物が、  
いなくなつたら、  
い  
つし、  
食べ、  
て、  
いる。とり、  
肉や、  
心、  
た、  
肉、  
などの料理  
が、  
食べ、  
られ、  
なくなつて、  
筋肉が、  
つ、  
なくなつて、  
しまふと思ひます。このことについて、  
は、  
二十一世記に生きる君たちへ、  
をかいた筆者  
の、  
司馬遼太郎さん、  
も、  
つ、  
そこに、  
空気と水、  
それに、  
土、  
など、  
という、  
自然  
が、  
あつて、  
人間や、  
他の、  
動植物、  
さらには、  
微生  
物に、  
いたるまで、  
か、  
それに、  
依存し、  
つ、  
つ、  
生きて

いるということである。

と示しています。私はこの文章を読んで、人間が今、たれ一人いなか、たらどうな、ていたのか疑問を持ちました。私の予想では、人間がいなか、たらこの自然がなくな、ていると思います。理由は、雨が少なくな、たら人が水やりをします、でも人間がいなか、たら雨がす、と少なくな、ても水やりができなくな、り、どんどん植物などが枯れてい、て自然がなくな、てしま、うと思います。

次に似ていないところは、未来には行けるけれど過去にはもどれないところです。未来とは先のことだから生きていければ、明日、明後日と次の日へ進めるけれど過去は昨日、おとといと、前の日のことだからいくらもどりた、いと願、てももどることかできないし、も、と前の自分か生きていない時代では、その時にしか生きていない人しか分かんないとい、うところか似ていないところだと思います。

筆者の司馬遼太郎さんは、

「も、とも、私には二十一世紀のことな、  
とでも予想できない。ただ、私に言えること  
かある。それは、歴史から学んだ人間の生き  
方の基本的なことともである。」

という文章を読んで私は、今生きている人は  
過去の人の失敗や成功などのちえをかりて生  
きている人だなと思いました。なせかという  
と、過去には電気やスマホ、冷蔵庫などはな  
かっただけで、ほとんど未来になるにつれて  
頭のいい人たちが電気などを発明して、今に

なっている人だなと思います。もしも電気な  
とを發明してくれる人か、いなか、たら夜はさ  
ま、くらで家族の顔が見れなくな、ていたと  
思います。

私は、二十一世紀へ生きる君たちへを  
読んで過去にはもたれないから今しかできな  
いことをし、かりとや、て、未来を過去にこ  
とをちゃんと考えて一日一日を大事に過こし  
てい、て、大人にな、たら楽しい学校生活た、  
たなと思えるような生活をおくりたいです。

未来に届けたい思い

駒形小学校 六年

大西

雪乃

私は「二十一世紀に生きる君たちへ」を読  
んで思っただことがあります。

私は、「他人の痛みを感じること」という  
文が目に残りました。この文を読んだ時、  
ふと、自分のいつもの様子が頭に浮かんでき  
ました。その時、他人の痛みを感じるなんて  
当たり前のことだと思っっていたのに、「自分  
は本当にできているのだろうか」という疑問

がわいてきたのです。よく考えてみるこ、友  
達に対しては、「大丈夫かな。今、いやじゃ  
なかっただかな」と心配しているけれど、家族  
に対しては、「別に何を言ってもいいや。家  
族なんだから」という風に思っただけのことか  
分かりました。このことを考えると、なんで  
今まで自分は大丈夫だと思っただのか、不  
思議なくらいでした。この文を読んで、私は、  
家族だからといって相手の気持ちや全く考え  
ていなかっただという、しても重大なことに気

が付きました。家族だから良いのではなく、家族だからこそ、痛みや気持ちを感じられるようになった。と思っています。

相手に優しくすることは、生きていくうえで、必要不可欠なものだと分かりました。しかし、自分に厳しくということも同じくらい大切だと思いました。そこで、私はできていないのかを考えてみることにしました。すると、ほんじでできていませんでした。例えば、

「平日も読書はしたくない。それならやらないでいいか。」

「本当はいけないけれど、夜にスマートフォンを使ってしまう。でも後で使うのをやめるから大丈夫。」

と言っ、て自分のことを甘やかしていました。本当はこれ以上にあります。このことを考えること、ハッとしてしました。こんなにも自分のことを甘やかしていたのだと驚きでした。頭では分かっ、ていても、心では別にいいやという気持ちがあっ、たのだと思います。自分に厳し

くするこの大切さが、改めて分かりました。  
「二十一世紀に生きる君たちへ」からは、  
たくさんのことを学びました。その文章の書  
き方から、司馬さんが、夜もほとんど眠らず  
書き続けている様子や、書き終わった後の、  
言葉にできないくらい幸せな気持ちの想像で  
きます。

この文章は、私にとっ て、自分のことを見  
直す機会になりました。司馬さんの思いがも  
つて未来にまで届いていくように、まずは自  
分自身の生活に生かしていきたいです。

「二十一世紀に生きる君たちへ」を讀んで

駒形小學校 六年 仁國 倖愛

私は、「二十一世紀に生きる君たちへ」を  
讀んで心に残ったことや考えたことが二つあ  
ります。

一つ目は、「自分だけで勝手に生きていく  
のではなく、相手のことも考えながら生きて  
いく」ということです。自分だけ好きなこと  
をやって生きていくのではなく、相手のこと  
も考えて協力して、助け合いながら生きてい

くことが大切だと思っただけです。私もこの  
ような経験をしたことがありません。前にハム  
スターを飼っていましたが、自分が飼いたいと  
言って飼ったのに、自分のやりがいなことなど  
を優先してしまって、ハムスターの世話を家  
族に任せ、きりにしてしまいました。この経  
験を通して、人間同士で協力して助け合うこ  
とだけではなく、動物を守るために自分で  
できることはやり、できないときは他の人と助  
け合いながら生きていくことが大切だと分か

りました。

二つ目は、自己を確立するということです。  
「自己を確立する」という意味が分からなく  
て、インターネットで調べてみました。する  
と、「自分は何者であるかを理解し、確信的  
に答えを出すことで、ゆるぎない自信と主体  
性を築き、他人に流されず自分の意志で生き  
る状態」という意味でした。私は、言葉の通  
りだなと思いました。「自分に厳しく相手に  
優しく」という自己だったら、自分には甘く

しないで厳しくし、相手には思いやりをもっ  
て接するということを中心にしておくと事  
が大事だと気付きました。そして、相手に流  
されず、自分の意思を伝えることも自己の確  
立だと思いました。「素直でかっこいい」とい  
う自己は相手に言われたことをけんきに受  
け止めて、自身の成長に生かしていくという  
ことが分かりました。筆者は、二十一世紀は  
自己が大切と言っているので、心の中で自己  
を意識して生きていきたいと思いました。

このように、一つ目に心に残った自分だけで勝手に生きていくのではなく相手のことも考えながら生きていくには、自分だけ何もせず好き勝手に生きていくのではなく、人間同士助け合いながら協力して生きていくということでした。

二つ目に心に残った自己を確立するとは、自分の信念をしっかりと持ち、生活するということでした。

私は、っつねに晴れ上がった空のように、たかだかとした心をもって、生活し、生きていこうと思います。この二十一世紀に生きる君たちへ、これからの人生に大切なことが学べました。

「二十一世紀に生きる君たちへ」を読んで

五年

佐藤

和史

ぼくが「二十一世紀に生きる君たちへ」を

読んで思ったこと、考えたこと、心にひびい

た言葉などがたくさんありました。

「人間は、自分で生きていけるのではなく、大

きな存在によって生かされている。」この言

葉が心にひびきました。確かに、ぼくは自分

自身のみで生きてはいけません。親が、こ

担任の先生だ。て、自然によって生きていま

す。そのため、ぼくたちは自然を大切にしな

ければいけません。しかし、ぼくはだんがん

自然にやさしくない世界になっっていると思

います。それは地球温暖化が進んでいるからで

す。地球温暖化により、雨加ふらず、なかな

か草木が育ちません。そして、人類を育てて

いたものが少なくなります。すると人間は数

かへ、ていき、少子化につながります。また、

自然がへると、農作物もへります。すると農

作物が高くなります。つまり、自然にやさし

1

5

10

15

20

1

5

10

15

20

くならなければ、人間の生活はとても苦しくなる。こう考えれば、人間は、自然に生かされていく。この言葉はしつくりくるなと思いました。司馬さんの期待があり、自分を含む人間は、自然を大事にしていくと思えます。

「さて、君たち自身のことである。」この言葉から後の文章を詠んで大切だと思、たことは、人間同士の共存の大切さびす。自己を確立する、これはとてもむずかしいことだと思

います。自分にまじしく、他人にやさしくすることとはとてもストラスがたま、こしまうと思いません。しかし、他人にやさしくするのは自分のみではありません。他人にやさしくされることで、自分も幸せになる。「助け合、て生きること」はとても大切だといつて分りました。

かまくら時代の武士は、たのもしさを大切に生きてきたと書いてあります。たのもし

い 武士は、他の武士からしたわれるように、

ぼくもたのもしい大人についていきたいです。  
 逆に、たのもしくない、これにもペコペコす  
 るような人にはついていきたくないです。で  
 は、たのもしくなるためにはどうなるべきか、  
 それを**考**えました。ぼくは、助け合える人が  
 と思います。全員とわけへだてなく接して、  
 全員の味方になれる人だと思います。ぼくは  
 そんな人になりたいです。みんなにもそんな  
 人になっほしいです。

これが、二十世紀に生きる君たちへ  
 を読ん**で**思っ**た**こと、**考**えたこと、心にひび  
 いた**言**葉です。この本を**読**んで、より一そ  
 自然の大切さ、**人間**関係の大切さが分りま  
 した。この時代がからこそ、ぼくたちは、よ  
 く**考**えなければいけないなと思ひました。